

男女が共に輝くAI時代への案内

—社会人も親子も学べる未来のアタリマエ—

報告書

AIってなんだか難しい

私たちの未来どうなるの？

AI

開催日時：2023年10月13日(金) 13:30～15:30

開催場所：広島市男女共同参画推進センター(ゆいぽーと)

共 催

株式会社日本政策金融公庫 広島支店

広島県ビルメンテナンス協同組合

広島市男女共同参画推進センター(ゆいぽーと)

広島市メッセージ

2023年度男女共同参画フォーラムの開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中、本フォーラムへ御参加いただき、誠にありがとうございます。また、日頃から、本市の男女共同参画の推進とともに、広島市男女共同参画推進センター「ゆいぽーと」の運営に御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、本市では、「国際平和文化都市」の実現に向けて、「世界に輝く平和のまち」「国際的に開かれた活力あるまち」「文化が息づき豊かな人間性を育むまち」の3つの柱の下、「持続」と「循環」をコンセプトに、「共助」と「協調」を基調とするまちづくりに取り組んでいます。理想の都市を目指す上で、性差による差別がなく、対等のパートナーとして責任を分かち合い、個性や能力を十分に発揮できる社会の実現が欠かせないことから、「広島市男女共同参画基本計画」に基づき、家庭生活や地域活動が職業生活と両立できるよう取り組むなど、様々な施策を着実に進めているところです。

こうした中、男女共同参画を推進する上で、急速に普及した AI は、大きな役割を果たす可能性があります。近年の AI の進化はめざましく、医療、教育、金融、物流など様々な分野で、大きな変化がすでに起きています。一方で、AI が人間にとって代わり、多くの人が仕事を奪われるのではないかとの懸念も聞こえてくるようになりました。しかしながら人類は、技術革新に伴い働き方を変化させながら成長してきた歴史があります。AI と共存する上での問題意識を持った上で、AI を活用することは、例えば、働き方改革による男女共同参画社会の実現において、今後一層重要になってくるものと考えます。

本日のフォーラムでは、松田雄馬様を講師に迎え、「男女が共に輝く AI 時代への案内—社会人も親子も学べる未来のアタリマエー」と題し、男女共同参画社会や多様な生き方・働き方の実現に向けた第一歩を踏み出すためのヒントが満載の講演が行われるとお聞きしています。本フォーラムが、AI と共存し、個性や能力を十分に発揮することのできる職場づくり、ひいては、男女共同参画社会の実現につながる一助となることを期待しています。

終わりに、本フォーラムの開催に御尽力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、本日御参加の皆様により一層の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

令和5年(2023年) 10月13日



広島市男女共同参画課長
倉橋 成之

開会挨拶

主催者を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中を2023年度男女共同参画フォーラムにご参加いただき、誠にありがとうございます。また、日頃から皆様には当センターにご支援・ご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。

本フォーラムは、日本政策金融公庫広島支店様、広島県ビルメンテナンス協同組合様との三者での共催開催で行います。センター開館以来、三者共催を続けさせてもらっております。

本日は株式会社オングガンツ代表取締役、松田雄馬様をオンラインでお迎えし、「男女が共に輝く AI 時代への案内—社会人も親子も学べる未来のアタリマエー」と題してご講演をいただきます。これからの男女共同参画推進や多様な生き方・働き方の変革などの実現に向けて、第一歩を踏み出すためのヒントを専門分野からご講演いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本フォーラム開催に向けてご尽力いただきました皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。ご出席の皆様にとって有意義な場となりますよう祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



広島市男女共同参画推進センター
センター長

信政 ちえ子

まつだ ゆうま

松田 雄馬さん

博士(工学)
大和大学 情報学部 特任教授
AI&メタバースLab.所長
一橋大学大学院 ビジネススクール講師
株式会社オンギガンツ 代表取締役

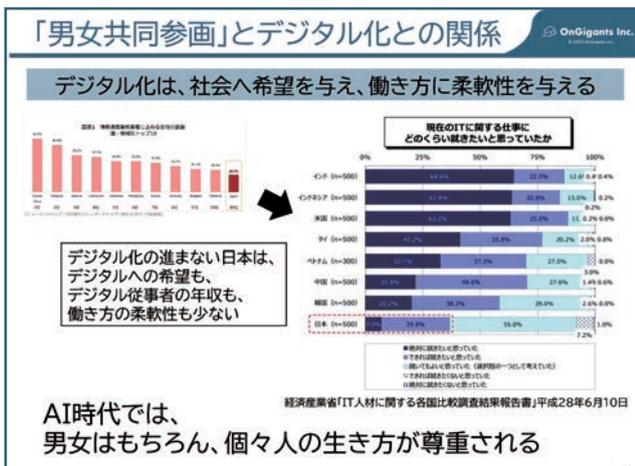


▼プロフィール▼

京都大学大学院卒業後、NEC中央研究所にてオープンイノベーションを推進。
MITメディアラボ、ハチソンテレコム香港、東京大学、との共同研究を経て、東北大学との脳型コンピュータプロジェクトを立ち上げ、博士号を取得した後、独立。
ケンタウロスワークス株式会社をはじめスタートアップ企業の技術顧問を経て、合同会社アイキューベータ(現株式会社オンギガンツ)を共同設立し、大手企業のAI/IoTを中心とした新規技術開発・事業開発を支援。
「人工知能の哲学」他多数書籍を出版しており、高校国語教科書7社9冊、高校・大学入試問題50校以上に採用。

▼講演実績▼

「人工知能と人間の哲学」(トヨタ自動車株式会社 国際経済研究所／2017.10.04)
「人工知能は人を感動させられるのか？」(文化放送 浜松町 Innovation Culture Cafe／2019.06.13)
「AIの限界と可能性」(野村證券株式会社 NOMURAスピーカーズシリーズ／2019.07.03)
その他、多数の企業・大学にて講演実績あり。



デジタルの分野で、男女共同参画が日本ではどれだけ進んでいるのか、他国と比べてどうなのかを見たときに、なんと「30位」でした。30%弱の女性が参画していることがわかります。順位自体はそこまで気にする必要はないと思いますが、例えば男女共同参画の先進国、台湾やマレーシア、こういった国々を見ると、デジタルの分野で40%以上の女性が参画しています。要するに「デジタルの分野でも男女はともに必要ですよ」ということだと思っんですね。

これは、現在 AI に関する仕事にどのくらい就きたいと思っていますか、というグラフです。例えばインドネシアなどの東南アジアでは、ITに関する仕事に就きたいか問うと、「絶対に就きたい」だけでも60%以上、「できれば就きたい」を合わせると80%以上で、これからはITだ!みたいな様子ですが、片や日本を見ると「絶対に就きたい」がわずか7%、「できれば就きたい」を合わせても、30、40%いかないくらい。日本ってデジタル化遅れているよねと言われますが、そもそも男女うんぬんの前に、ITやデジタルというものが社会にとって魅力的ではないんですよね。どうしてかということ、そもそも働き方がデジタルに対応していなかったり、年収などの待遇も良くなかったり、男女の役割も固定化されていたりする。そんな中で、デジタルで何か新しいものが生まれてくるぞ、みたいな希望がないというところはすごく大きいと思います。実はインド、インドネシアみたいにITやデジタルに希望がある国というのは、男女はもちろん、個々人の生き方というものが尊重されています。例えばデジタル社会では、パソコンを使えばどこでも仕事ができる。今私も、違う場所から広島に繋いでいますが、場所を問わず色々な場所で働ける。そういった個人の生き方が本当は尊重されるべきものですが、日本はまだそうっていない社会。ですので、当然ながら男女もそうですが、もっと言うと個々人の生き方というところで、本当はデジタルを使えば展望が開けてくる、というところをまず押さえてみると面白いかなと思います。

そしてAI時代において、どんな考え方が必要で、今まで大事にされてきたことの何を引き続き大事にするべきなのか、というところも必要だと思います。そんな時に、そもそもAIを考えると、ぜひ考えていただきたい質問があります。

質問 小学生に「AIが代わりに仕事をしてくれるから私勉強しなくてもいいよね」というように言われたらどう答える？

参加者の回答

- AIは道具だよ。
- そもそも仕事のために勉強するんじゃない。幸せに生きるために、損をして生きないために勉強をするんだ。あと勉強をすることで、興味関心が増えたり、夢が増えたりする。
- AIは自分で考えることができないから、あなたがしっかり勉強して考えて、教えてあげないとね。
- AIが仕事をして自分がお金を稼げる訳じゃないよ。
- まず勉強しないとAIが理解出来ないよ？
- 仕事しないでいい分、あなたは何したいの？

非常に優秀な「現場スタッフ」の姿



こうした「現場の知」は、
AIによって代替されるように感じるかもしれませんが
ところが、いざ新入社員として仕事を始めると、
常に悩まされるのは現場の知…
一人ひとりの「個性」は、そうした「経験」によって磨かれるのです

…なぜ皆さんに考えていただいたかという、これはAI時代に私達は何を学んで、どんな能力を身に付けて、どんなキャリアを築けばいいのか。そういうところにもなっていくかと思います。そこで、AIとは真逆のように見えるこんな能力、ということで書いてみました。

例えば、現場スタッフ。皆さんの中には、うちの職場ってアナログだよ、みたいな方もいらっしゃるかと思います。例えば、ある種アナログの権化のような、スーパーみたいなところで働いていて、今ここにお客さんがいるからこういうふうに棚を整理しなきゃいけないねとか、あそこで在庫が切れかけているからこうしたらいいね、というように、現場には聖徳太子みたいに色々なことを考えられるようなスタッフさんがいらっしゃいますよね。こういう「現場の知」は、そう簡単に身に付かないです。AIも同じで、データをいっぱい食べさせたらAIもそれをできるようになるのではないかと感じられがちだけどそうではない。ここで一度考えてみてほしいことがあります。

例えば新入社員として仕事を始めた時「この職場ではこれが当たり前だよ、こんなところにも気を遣わないといけないよ」みたいなことに戸惑いますよね。まさにこれが「現場の知」だと思います。「現場の知」を知っているからこそ、「これってAIを使ったら少し楽になるよね」とか「これはやっぱりデジタルに置き換えなきゃ」というところがわかってきます。これが人間とAIのある種の違いでもあるし、そういうところがあるからこそ、これからどんどんデジタル化することで便利になっていく部分もあります。

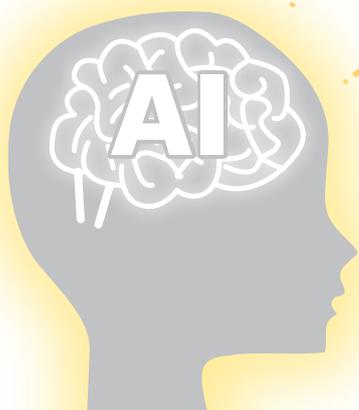
そもそも AIって何なのかというと、人間の脳を真似たもの。では人間の脳の何を真似たものなのか。

100年以上前に脳科学の研究が始まりました。その時に、人間の脳は細胞でできていて、特に神経細胞という信号を伝え合う細胞でできているみたいだ、ということが言われました。ではその信号を伝え合う細胞が、何かしらデータを学習するってどういうことなんだろう？というように当時の研究者は考えました。ここまでが実際の生物の事実です。ここからは生物というか実際の人間の脳とは関係なく、当時の研究者が、脳がデータをどういうふうに学習していると考えたのか、という説明をします。

例えば AIにみかんを学習させて、それがみかんだというふうに認識させたいときはどうしたらいいかを考えました。みかんってオレンジ色だよ、丸いよね、といったように、色々な特徴を持っています。そんな特徴に対して、もしみかんを認識する細胞があったとして、こんなふうに細胞を繋いであげたらどうだろうと考えました。そうしたときに、もしみかんを見て、オレンジ色で丸いという要素でこの細胞のネットワークを介してみかんが光れば、AIがみかんを認識したということになりますよね。

AIの正体というと、ディープラーニングとか、何とか学習というようなごつい言い方をされますけど、実はなんのことはない。こういう繋がりを覚える、それだけのことなんですね。ひとたびこういうことができる、例えばみかんの画像を作りたいというときに、逆にたどると「オレンジ色」「丸い」になり、みかんの画像ができるという感じです。逆にたどっていくと情報が作れます。もっと言うと、みかんを作って欲しいというふうに人間が言ってあげないと当然 AIはみかんを作れないし、りんごって言わないとりんごは作れない。さらに、こういうみかんというように詳しい情報を与えると、より正確なものを作ってくれるということです。これは画像だけじゃなくて文字や言葉も一緒です。

こんなふうに、データの繋がりを記憶することで逆にたどって情報は作れるので、条件を絞り込んでいくとより正確なものを作ることができるようになります。例えばチーターの細胞を作ったらチーターができる、マッシュルームの細胞を作ったらマッシュルームができるみたいな感じです。そして昨今さらに発展してきました。例えば、道路のひび割れの大きさを修理が必要かどうか自動的に認識できるようになったり、物体の特徴がわかるようになることでどこにそれがあるかわかったり。目を学習させたらその目の表情や動き、関節を学習させたら姿勢の推定ができたりするので、ダンスをする動画を撮ると、ダンスが上手い人はどんなふうに体を動かしているのかみたいなこともわかります。



AI、そしてデジタルが変えるワークスタイル

社会がAIによってデジタル化すること、昨今デジタルトランスフォーメーション、デジタル変革ということで、デジタル化していく=DXなんていうふうに言われています。AIをどんどん使いながらDXを推進していこうというようなことが世の中ではよく言われていますけど、そもそもこんなことを誰が望んでいるのかと悩んでいた時期が私にもありました。ここで広島市男女共同参画推進センターさんの理念をお借りしますが、「人と人が繋がる活動の拠点であって男女が対等なパートナーとして責任を分かち合い、個性や能力を発揮できる社会を実現する」ここですよ。別にAIを使うことを皆さんが望んでいるわけではなくて、デジタル化すること自体を望んでいるわけではなくて、人と人が繋がることで能力を発揮していけるっていうところが拠点になっているのかなと思います。実際に世の中でうまくいっているAIやDXの事例を見ていくと、そうなんですよね。人と人が繋がって人に寄り添うDXじゃなければ、当たり前ですけど誰にも使われないので、どこかでなくなってしまいます。

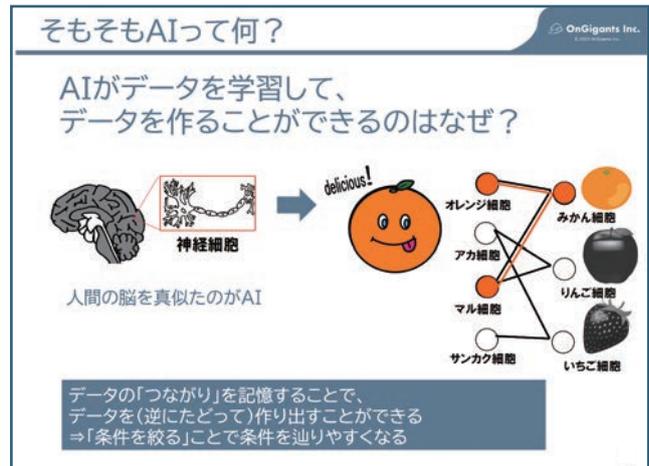
そんな事例を四つ皆さんに紹介したいと思います。人に寄り添うDXのキーワードとしてこんなところを挙げてみました。皆さんの普段の生活の中で、きっと今後こんなふうになっていくだろうというところを含めてお伝えしたいと思います。

待ち時間

例えば病院の待ち時間、予約したのに行ってみると、すごく並んでいる。時間通りに行っても待たされることすごくありますよね。そんなときに、オンラインの予約システムや、予約するだけじゃなくて現在これぐらいの待ち時間ですということが共有されるように情報をオンライン化できると、行って見ないとわからないということがなくなっていく。それがまず変わっていくところかなと思います。おそらく今の時点で多くの病院がオンラインの予約システムを取り入れていますけど、これからさらに進んでいくでしょうし、とりあえずチェックインだけオンラインでできるようになるとか、いろんな便利さ、苦痛がなくなって楽になるということが今後増えていくのではないかと思います。

一元管理

このような形で情報をオンライン化できるようになると、今度はいろいろ点在している情報が一元管理できるようになります。先ほどの病院の例だと、お薬手帳や診察券でカバンの中がパンパンになる、なんてことも多いかと思います。これがデジタル化していくと、そんな部分も改善してくれますよね。更に、データが繋がっていくことで「誰々さん今こういう状況なんじゃないか」みたいなことも含めてわかるようになります。例えば病院に行くと、「今どういう状態か」ということを言葉で話しますよね。でも言葉だけだとなかなか伝わらないこともある。それが、色々なデータを見て「こういうことだったらこうです」っていう感じで、お医者さんの判断を非常に正確にすることができます。



データ利用

一元管理できるようになると、今度はもっと攻めの姿勢でデータが利用できるようになります。例えば自動車保険。当然安くはしたい。でも何かあったときの保障もしたい。昨今テレマティクス保険のような新しい保険が増えてきています。何かというと、自動車にセンサーがくっついていて保険会社と提携してデータ

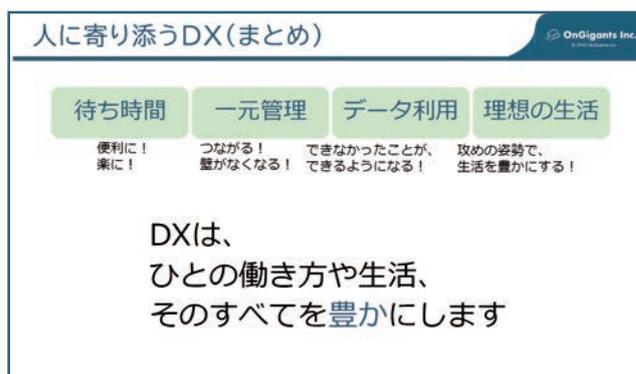
が上がることで、この人は安全運転をしっかりとやっているからきっとなかなか事故を起こさないし、事故を起こすにしてもリスクは少ないだろうからもっと安くできる、逆に結構リスクがある運転をしていて安心できないので安くするのは難しい、というように、データを基に内容が判断される保険です。こうすると、どんどん安全運転をする人も増えますよね。データによってちゃんとしている人が得をしていくような社会にこれからなっていくのかなと。要するにデータを一元管理できるようになったら、今度は利活用ができるところまで社会が発展していくということですね。

理想の生活

最後に理想の生活というところですが、皆さんいかがでしょうか。例えば、ちょっと運動不足だなという時に、ジムに行っている方もいるんじゃないかなと思います。その中でぶつかる壁として、手軽に、しかもなるべく継続させたいけど、なかなかモチベーションが上がらないみたいなことがありますよね。他にも、健康生活自体は手に入れた、じゃあ更に何か自分に合った方法はないのかなというところで、自分だけの、自分だからそのトレーニングメニューを提案してくれるようなアプリが最近出てきています。おそらくこれがどんどん進化して行って、要はモチベーションを高めてくれるところまで実現するのではないかと。先ほど、条件さえ揃えばそれなりに正確なデータを出してくれるのがAIだというお話をしましたけれども、自分の情報をどんどんアプリに入れることで、こういうときにきっとこの人はモチベーションを上げられるんだな、みたいな部分までAIが学習すれば、それも含めたメニューを提案できる感じになっていくような可能性があるかと思います。

以上、こういったデジタル化、DXの流れがあるというところをお話ししました。まずは待ち時間みたいな非常に苦痛な部分を楽しんでいこうということですね。それがなくなったら今度は一元管理、情報がバラバラに点在している苦痛さがなくなってくる。それができるようになると、今度は今までできなかった「データを使う」ということができる。もっといくと、生活自体をある意味攻めの姿勢で変えていく、こういうふうにしたいて考えて、実行してみてよかったら取り入れ更に活用して自分の生活を変えていく。これは別にAIに生活を支配されることとは全く違うんですよ。DX、デジタル化というのは、人の働き方や生活全てを豊かにしていくものだというところを、メッセージとしてお話しさせていただきました。

AIによるDXが目指すものとして、当然ここまで考えると男女共同というか、男女の違いをなくすということは当然で、全ての人たちを幸せにするし、全ての人たちが協力しないとそういう世界になっていけないというところがあるかと思います。そういった形で、これからデジタル時代AI時代になっていく中で、実は自分が日々向き合っていること一つ一つとっても、こういう不便なものなんとか新しくできないかなっていうところから、「便利になるようなアプリを検索してみたら意外にあった」とか、「ChatGPT使ってなんとかできないかなというふうに思って使ってみたら使えた」とか、「使えるけど全部に使えるわけじゃないね」とか、そういうところを発見しながら、いわゆる働き方や普段の生活をより良く変えていくことができるかなというように思います。



今日からはじまる一歩先の未来

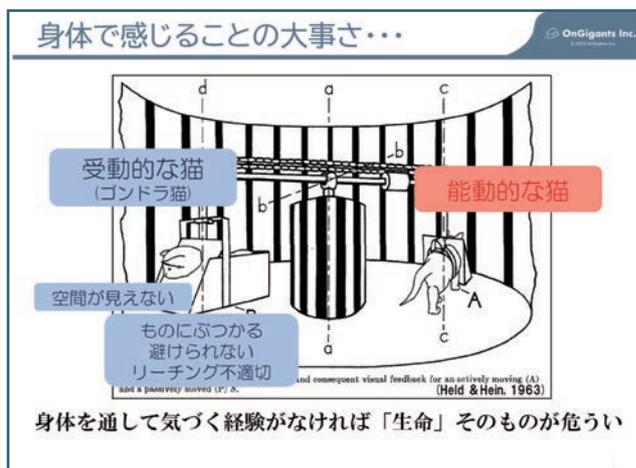
AIの専門家として断言したいのですが、実はAIって自分の失敗に気付けません。もう少し堅い言い方をすると、自分自身に気付くこと、認識することができないと、当然何かやらかしても気付かないし、もっと言うと自分が何をしているかも気付けません。例えば ChatGPT ってすごく正確に情報を返してくれるので裏側に人間がいるように思いますが、やっていることって今まで学習したことをベースに、何かしらの条件にあわせてそれを返すということをしているだけです。ある意味反射をしているだけなんです。

ここで1960年代のアメリカの研究をご紹介します。生まれたばかりの子猫をこんな装置に繋いじゃったという実験です。最近では動物愛護の観点からもうできない実験ではありますが、この実験で用意された片方の猫ちゃんは、自分の足で歩ける＝能動的に動ける、もう片方の猫ちゃんは、この能動的な猫ちゃんに引きずられゴンドラに乗って楽に物を見て生きていくことができる＝自動的に動く楽ちん猫ちゃんです。こちらはゴンドラ猫ちゃんと言います。

そこで皆さんに考えてほしいのは、この2匹の猫ちゃんにこの後何が起きたか、ということです。実は2週間ほどこの装置の中で、餌もあげながらしばらく放し飼いのような形で生きてもらった後に、この2匹の猫ちゃんを野に放ちました。そうすると能動的な猫ちゃんは普通に生きていけましたが、ゴンドラ猫ちゃんに異変が起きました。それは何でしょうか。もしかすると歩くことがしんどくなったような感じの印象を受けるかもしれませんが、意外に野生の動物って歩けるので、その点は、あまり支障はなかったみたいです。

よくシマウマとかも生まれて30分ぐらいで歩けるようになると言われますけど、ゴンドラに乗った猫ちゃんも、歩くことはできたみたいです。ところが、驚きなのは、この後、ゴンドラ猫ちゃんには、「目が見えなくなる」ということがあったのです。見えなくなったってどういうことかということ、例えば物にぶつかる。要するに、自分の足で動いていると、第一歩を踏み出したときに景色がどんなふう流れていくか、2週間も動けば感覚でわかるようになるけど、そうでない場合に、初めて自分の足で歩こうとして何か景色が変わったとき、景色が変わったということすら気付かないで平気で目の前のものにぶつかってしまう。ぶつかるし、何かしらボールなどが飛んできたときにも、能動的な猫ちゃんは自分でよけた経験があるから避けられるけど、ゴンドラ猫ちゃんはそもそも飛んできたことにすら気付けない。そしてリーチング、日本語で言うと届けるという意味ですが、例えば餌まで前足を届けるとか、あるいは自分の口を届けるのかということも、できなくなりました。どういう一歩を踏み出したら目の前の餌にどう変化が起きるのか、どういう景色になるのかわからない。自分でやったことがないので生きていくことすらできないのに近いですね。

要は、能動的な猫ちゃんは自分の体でもって色々なものにぶつかったりしながら色々なことに「気付く」ということですが、この「気付く」ということをやらないと、そもそも生きていけないことがこの実験からわかりました。だからこそ能動性、主体性ってめちゃくちゃ大事ですよというふうに使われます。ですが、我々みたいにAIの研究をやっている人間からすると、大事どころではなくて、能動性がないとそもそも人間の知能というか脳を育てることができない、というぐらいのちょっとやばいところでもあります。



一人一人がやっぱり能力に気付いていくということが、これからますます大事になるんじゃないかと思っています。AI時代、男女共同参画はもちろん、一人一人がその能力を発揮することで誰もが輝ける時代になります。まるで血液型を知るように自分自身の眠る能力を知ってキャリアを築いていくということが、きっとこれから当たり前になる。自分自身に気付くということが一番大事になってくるのではないかと思います。日本はまだまだ男女共同参画やデジタルが遅れていると言われていますが、自分自身の力に誰もが気づき、輝かしいキャリアを築きながら、一人一人が豊かな社会をともに作っていくことが非常に大事なんじゃないかと思っています。

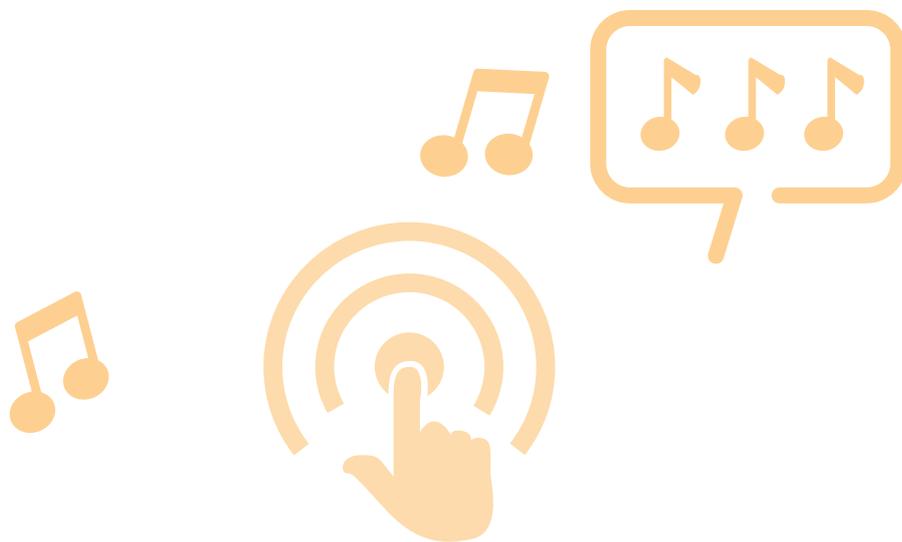
質疑応答(抜粋)

(Q1) 仕事と育児や家事の両立に AIが役立つことがあれば教えてください。

➡ 情報共有。日中、夫婦お互いが離れている場合、認識の違いが出てくると思うので、AIとまではいかないまでも、一元管理というか情報をしっかりデータとして共有しておく、そうすることでお互いの視点・認識が一致するようになるのではないのでしょうか。

(Q2) AIは良い方向に活用できればいいのですが、犯罪などに悪用されると怖いと感じます。

➡ AIを知っておく、これが一番の防衛になります。人間には知っておけば臨機応変に対応できる力があります。まずは自分でさわってみて、知識を吸収する、学んでいく。これが危険に対する対策にもなってきます。



開催に寄せて

2023年度男女共同参画フォーラムを無事に開催できたことを、心より感謝申し上げます。

今回は、コロナ禍をきっかけに市民権を得たオンライン形式に加え、リアルでの会場聴講と併用したハイブリッド形式で開催いたしました。オンライン形式のメリットを活かし、北は北海道から南は鹿児島まで幅広い地域の方々にご参加いただきました。ご参加いただいたみなさま、そして、熱のこもった素晴らしいご講演をいただき、質問にも丁寧にご対応いただきました松田先生に対し、厚く御礼申し上げます。

若者からシニアまでの幅広い年齢層に加え、男女の偏りなく多くの皆さまにご参加いただいたことから、今回のテーマである「AIとの向き合い方」への関心の高さがうかがえ、テーマ選定が間違っていなかったと安心した次第です。

松田先生のお話の中で特に印象に残ったのは、「世界ではデジタルの分野での男女共同参画はアタリマエ」という前提です。AI時代の今、男女共同参画はもちろん、個々人の違いを理解してそれぞれが必要な役割を担うことが重要とのことでした。ChatGPTをはじめとしたAI活用が世間に浸透しつつありますが、「怖い」「難しそうだな」といった印象をもち、なんとなく敬遠している人も多いのではないのでしょうか。私もそのような一人です。AIについて理解を深めることで、日常生活のなかでAIを使いこなすファーストステップを踏み出したいと思います。

また、「人と人がつながり、人に寄り添うDXでなければ、何の意味もないと思う」とのお話がありました。身近な例でいえば、病院のオンライン予約システムです。たしかに病院へ行ってみるまで待ち時間がわからない、という辛い状況をAIが解決したわかりやすい事例です。男女共同参画の観点からみると、ロボット掃除機や食洗器などは家事負担軽減に寄与しているDX化ではないのでしょうか。

AIには感情はおろか、自己認識そのものがありません。そういうことから人間の役割はAIに仕事を与えることだと認識を新たにしました。今回の講演が皆さまのDX化やAIへの理解が深まるきっかけになったのであれば幸いです。

最後になりましたが、皆さまの今後のご活躍を祈念いたしまして、フォーラム開催にあたっての挨拶とさせていただきます。



株式会社日本政策金融公庫
広島支店 支店長
齊藤 卓也

2023年度男女共同参画フォーラムを滞りなく終えることができました。

ご参加いただいた皆様や、講師を引き受けていただいた松田様には、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

今回のフォーラムは、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類へ移行してから初めての開催となりました。コロナ禍では、やむを得ず、オンラインでの参加を求めてきましたが、今回の申込結果を見れば、圧倒的にオンライン参加の申し込みが多く、こういったところでも社会環境とスタイルの変化を感じたところです。

また、講演も松田講師がチャットで受講者から質問、感想を受け付け、常時、受講者と対話しながら、一方通行にならないよう進行していただきました。

さて、今回は男女共同参画とAIをテーマに、起業家であり研究者、そして教育者である松田雄馬さんを講師にお迎えし、男女が共に輝くAI時代について、丁寧にわかりやすく説明をしていただきました。

講演では、最初に、日本と他国との違いとして、日本は男女や個々人の生き方が尊重される社会になりきっていないことを指摘され、これからのAI時代に、こういった考え方で、何を引継いでいくべきかを問題提起されました。

生成AI、ChatGPTの解説では、実際にクレーム対応文書の作成をしていただき、使い方やこれからの進化についても示していただきました。

後半では、「ゆいぽーと」の活動理念の「人と人がつながる活動拠点であり、男女が対等のパートナーとして責任を分かち合い、個性や能力を発揮できる社会の実現を目指す」ことを紹介していただき、人に寄り添ったDXを推進すれば、働き方や生活を豊かにし、それを実現するものがChatGPTをはじめとしたAIであることを解説していただきました。

最初は、AIと聞いて、難しく、非人間的な印象がありましたが、最後には、AIと共存し、人間らしく、豊かな生活を送れる未来への希望を抱いていました。

今回の講演では、これからAIが、男女共同参画の推進に大きく寄与していくことを実感することができました。

また、皆さんとは、こういった機会を通じて対話をしてまいりたいと思います。ありがとうございました。



広島県ビルメンテナンス協同組合
理事長 澤田 英治

■ 発行
令和6年(2024年)3月

■ 発行元



日本政策金融公庫

広島支店

〒730-0031 広島市中区紙屋町 1-2-22
広島トランヴェールビルディング 5・6階
TEL : 082-244-2231
URL : <https://www.jfc.go.jp/>



広島県ビルメンテナンス協同組合

〒733-0812 広島市西区己斐本町 2-19-3
TEL : 082-273-8271
FAX : 082-273-8263
URL : <https://www.hbmc.or.jp/>



広島市男女共同参画推進センター

ゆいぽ〜と

〒730-0051 広島市中区大手町 5-6-9
TEL : 082-248-3320
FAX : 082-248-4476

URL : <https://www.yui-port.city.hiroshima.jp/>



この報告書に掲載されている画像その他の無断転載・転用を禁じます。